

書籍紙面サンプル（実際のページ）

■ はじめに

こんな会社でサラリーマンなんかしてないで、農家になりたい。でも具体的にどうすればいいんだろう？誰に相談したらいいんだろう？— そう思ったあなたが、今この本を読んでくれているのではないかと思います。

著者で現役農家である僕も、かつてはサラリーマンでした。新規就農を志して農家になりましたが、ここまでの道のりは決して平坦ではなく、たくさんの苦勞をしました。…今もしていますが。

実は国（農林水産省）は、新規就農を支援するとハッキリ謳い、支援策もいろいろと打ち出しています。それなのにあなたは就農の段取りがよく分からない。なぜか？「分かりにくい」からです。なぜ分かりにくいのか？たくさんの方が関わっているがために、農林水産省をはじめとする農政関係者の努力が、新規就農を希望する人まで届きにくいのです。

これは組織が重層的である以上、簡単には解決できない問題です。であるならば「分かりやすくする」のが、僕にできる仕事のひとつだと感じるのです。

この本は、後に続く仲間がすこしでもスムーズに就農できるように書いたものです。新規就農についての各方面からの情報発信は、今

も昔もそれなりにあります。ただ実体験を元に、就農の具体的なノウハウや注意点をまとめたものは、多くないように思います。だから当事者である僕が書きました。悩めるあなたに新規就農の実態が伝わるよう、できるだけ詳細に、分かりやすく、一生懸命に書いたつもりです。

僕は元「普通のサラリーマン」です。つまりあなたは、昔の僕なのです。そして僕は、はっきり言ってダメなサラリーマンでした。そんな僕でも農家になれたのです。この本で段取りをしっかり把握できれば、きっとあなたが農家になる助けになります。それではさっそくお話を始めたいと思います。

【著者プロフィール】

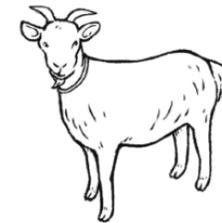


宮城県仙台市出身。サラリーマン生活を経て新規就農を志し、2012年に新規就農。現圃場面積はおよそ2ha。固定種・在来種を中心に年間40品目・120品種の野菜と平飼いの精卵を生産し、個人と飲食店への直売を主とする。新規就農相談員としても活動し、2025年より「新・農業人ネットワーク」副代表を務める。町中華好き・お酒好き・ヤギ飼いで、在野マーケティング・積ん読マスター・飲食店メニュー愛好家

第2章：就農を考えはじめたら

新規就農の相談窓口というのは、各都道府県にかならずひとつあります。まずはそこに相談するのが第一歩なのですが、相談する前に最低限考えておくべきことがあります。

「農業をしたいです。でも何をどうすればいい分かりません」だけだと、窓口の担当者はイチからすべてを説明しなければなりません。事前に準備しておけば、スムーズにことが運ぶのです。



独立自営農家になるためのステップ



決して焦るな！一歩ずつ着実に！

第4章：農家研修と開業準備

順調に相談を進めていけば、あなたはやがて農家研修という段階に入ることになります。研修を受ける際の注意事項と、農地さがしや家さがしといった研修中に進めていくべき内容について、僕の実体験も交えてお伝えします。



①農家研修の必要性

就農するためには、農家研修以外にも「教育機関で学ぶ」「研修を受けず独学で挑戦」など複数の道があります。でもできれば、僕としては農家での研修をおすすめしたいです。

農業大学校などと呼ばれる教育機関では、広い範囲の知識と実技をまなべて、経営に関する科目や外部講師を呼んでの講話等があります。僕も何度か依頼を受けて、就農についての講義に行ったことがあります。農家研修との一番の違いは、教えてくれる先生が実際には経営をしていないことです。

しっかり体系づけられたカリキュラムがなくても、自分の理想に近い農家での研修が、技術習得にはいちばんの近道だと思うのです。研修先のつながりを頼れば、農地や移住のための空き家も見つけやすいことと思います。だから、あなたが就農したい地域でひとつの理想とする農家を見つけて、研修をお願いするのが一番合理的でしょう。

なお独学は、耕作能力を客観的に証明しにくい農地借用のハードルが非常に高く、おすすめできません。

②研修の心構え

研修先自体も当然農家であり、日々の農作業を手伝うことそれ自体が「研修」となることを肝に銘じましょう。教育機関のような座学ではなく（座学も多少はあるでしょうが）、実際の仕事を手伝いながら、

力的にも時間的にも厳しい生活になる覚悟が必要となります。

③まずは農業法人で経験を積みたい

「農業法人で給料をもらいながら、独立に向けて経験を積みたいのですが？」

会社である農業法人で求められるのはあくまでも「サラリーマンとしての労働」であり、積極的に就農のサポートをしてくれるわけではありません。収入が途切れることを恐れているのですが、農家研修でスキルを磨いて、さっさと新規就農した方が結果的には早道と僕は考えます。

ただしごく一部に、新規就農（独立）を積極的にサポートすると謳っている企業もあるので、独立率などをくわしく調べてみる価値はあるかもしれません。

④農業法人を設立したい

「自分で農業法人を設立して、会社としてしっかり稼ぎたいのですが？」

農業法人は必要があって設立するものであり、最初から法人の設立を目的とするのは本末転倒で意味不明です。法人化すると、個人事業では求められないこまごまとした事務処理が必要になる上に、税負担も格段におおくなります。

個人事業として一定額以上を稼ぎ「法人化した方が金銭的に得」と確信してから設立しても、まったく遅くありません。

⑤農業マネジメントのみをやりたい

「自身は就農せず、農作業のマネジメントや農産物の販売仲介を行いたいのですが？」

農作業のマネジメントを必要としている農家はおらず、農産物の販売仲介は赤字の先行者が溢れるレッドオーシャンです。そもそも自分が動かずに他人のファンドシで相撲を取る、楽をして利益をかすめ取るような人物に、積極的に協力する農家はいません。容易に下心を見透かされます。

就農して事業が軌道に乗ってから仕事を広げるなら筋が通りますが、現場を知らない素人に仕事を依頼するプロ農家は皆無です。

⑥年齢と就農の可否について

「40代以上、または新卒で就農をしたいのですが、可能でしょうか？」

可能です。ただし40代以上では迅速な行動と綿密な計画の両方が求められます。若者のように失敗できないからです。新卒は社会経験がないので対人関係や一般的なビジネススキル、マナーで不利となることが多いかもしれません。